

鳥取県は、北に日本海、南に中国山地があり、東西に細長く、日本海に面した北半分が平野部、南半分は山地になっており、さらに、それぞれは日本海沿岸部と中国山地の山間部とに細分できる。本研究はこのような自然環境にある鳥取県の気候を気象庁の長期間の観測データを使って定量的に評価したものである。約40年間の気象庁のアメダスの毎時間の降水量・温度・風向風速・日照時間・積雪などのデータを解析した。日平均や標準偏差を求め、さらに最高気温や最大雨量などの極値も評価した。また、アメダスの風データから鳥取県の東西の平野部の風の流れの違いを調べ、温度の解析と併せて降雪や積雪への影響を調べた。そして、気候が地形に応じて地域ごとにどのように分けることができるかを調査した。その結果、春から夏にかけての気温と冬の降水量の差により、鳥取県を米子市、倉吉市を含む中西部の平野と鳥取市を含む東部の平野に分割できることが明らかとなった。それには東西に長い平野を持つ中西部と南北に深い平野を持つ東部の地理的要因や冬の季節風が起因していると考え、その影響を評価した。それ以外の季節についても各気象要素を詳細に調べ、鳥取県東西の気候特性の地域特性を明らかにした。